

研究種目： 基盤研究(C)
研究期間： 2007～2010
課題番号： 19520220
研究課題名（和文） 多言語地域における文化資源蓄積の比較研究

研究課題名（英文） Comparative Study of Cultural Resource Storage in Multilingual Areas

研究代表者 三谷 研爾 (MITANI KENJI)
大阪大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号： 80200046

研究代表者の専門分野： 人文学

科研費の分科・細目： 文学・ヨーロッパ文学

キーワード： 多言語地域、文化資源、ボヘミア、シレジア

1. 研究計画の概要

本研究は、ボヘミアとシレジアというふたつの多言語地域の文化環境にかんする学知の集積状況そのものに注目し、そうした歴史的展開を冷戦期、さらには 1990 年代以降の中欧地域の政治的・社会的なコンテクストに照らしながら、比較検討をおこなうものである。そのさいとりわけ、専門家による文献の研究が、展覧会、講演会、出版・放送メディアなどをつうじて、社会へ接続可能な文化資源へと変換されている現状の解明に重点を置き、また、両地域を比較対照によって、ドイツーチェコ関係およびドイツーポーランド関係という、それぞれ固有の歴史的条件に規定される差異の側面を確認するとともに、中欧の多言語地域に共通する問題の位相を明らかにする。以上の分析により、多言語地域研究に関する学術情報が文化資源へと転換・活用されている実態を全体としてとらえ、文学研究がはたしうる社会的役割の可能性をも検討する。

2. 研究の進捗状況

本研究は、過去3年にわたって、ボヘミアとシレジアの文化環境にかんする学知の集積状況を文献調査と実地調査の両面からすすめてきた。文献調査においては、多言語的な文化伝統がいかに記述され、学知として定着されてきたかを、主として都市史、地域史、地域文学史の言説に即して検討している。また、実地調査においては、とりわけ関連テーマの博物館(資料館)常設展・企画展のコンセプトを分析することで、社会的な成果発信の場面そのものの検証に取り組んでいる。文献資料が豊富なボヘミアにかんしては、都市史および文学史の記述において多言語文化

への視点が形成されていった経過を問題史的に整理し、単著『世紀転換期のプラハ』序章で包括的に論じた。また、多言語的な社会環境をテキストに組み込んで作品化した事例として、プロートの『チェコ人の女中』およびカフカの『失踪者』を取り上げ、そのテキスト構成ならびに作品受容史をあとづけることによって、文化資源化における文学テキストの役割を明らかにした。さらに、文化資源化された学知を市民社会へ接続する試みの事例として、1995 年にベルリン文学館が企画した展覧会を取り上げ、そのコンセプトと展示の実際について検証した。他方、シレジアにかんしては、都市モノグラフィーを分析して、ドイツ側での研究状況が現ポーランド領からのドイツ人追放に偏していることを確認したうえで、ドイツーポーランド国境の都市ゲアリツに常設機関として設立されたシレジア博物館に焦点を絞り、その設立経緯および展示内容について、聞き取り調査を重ねている。

3. 現在までの達成度

② 本研究はおおむね順調に進展している。

基礎的な資料収集と実地調査からスタートした本研究は、学知集積を確認する段階を経て、個別資料の具体的分析ならびにターゲットとするべき展示の絞り込みとそれに付随する聞き取り調査を継続している。とりわけ文献の蓄積が分厚いボヘミア地域については、文学史的言説の分析、さらには文学展示の検証へと考察が進展しつつある。

4. 今後の研究の推進方策

2年目以降、シレジア地域にかんする文献資料の蓄積が、第二次世界大戦後における同地域からのドイツ人追放に偏っているため、文献資料の分析はボヘミアを中心、現地調査はシレジアを中心とする態勢で研究を進めてきた。最終年次にあたる本年も、引き続きこの態勢を維持し、ボヘミアについては文化資源化された文学研究における写真資料の役割について、シレジアについてはシレジア博物館常設展示について、それぞれ検討をおこなうことで、「視覚化」を契機とした学知の文化資源化の比較考察を進める。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

- ①三谷研爾、「展示された文学史 プラハのドイツ語文学とそのベルリン展(1995)の射程」、待兼山論叢(文学篇)、査読なし、43、2009、1-20
- ②三谷研爾、「カフカにおける〈交通〉とアイデンティティ」、日本独文学会叢書、査読あり、66、2009、33-45
- ③三谷研爾、「〈交通〉のユートピア プロローグ『チェコ人の女中』における越境と移動」、東北ドイツ文学、査読あり、50、2007、101-119

[学会発表] (計1件)

- ①三谷研爾、「都市空間と物語 カフカの『失踪者』をめぐって」、文学と環境フォーラム、2008.3.15、大阪大学

[図書] (計2件)

- ①三谷研爾『世紀転換期のプラハ モダン都市の空間と文学的表象』、三元社、2010、330ページ
- ②三谷研爾、『ドイツ文化史への招待 芸術と社会のあいだ』、大阪大学出版会、2007、181-199